



The King of
Custom Classics

Case 4

豊満で上質なトルクを
パドルで操る快感!

NISSAN Fairlady 240ZG RB25DET
NEO STRAIGHT

時代を超えて愉しめるJクラシックの世界。

中でもスポーツマインドを大きなテーマとして走りが追及されたクルマはカッコいい!

楽しく操るための方向性は大きくふたつ、ひとつはレーシーでスバルタンな世界。

そしてもうひとつはよりイージーに、それでいて確かな手応えのあるフィーリングである。

後者を代表するパドルシフト仕様に本誌編集長が試乗した。



The King of Custom Classics
Case 4 NISSAN Fairlady 240ZG RB25DET NEO STRAIGHT

高出力280馬力を誇るツインカムターボをベースに、ファインチューンがなされたパワフルなエンジンを搭載。



吸気系におけるチューニングも怠りない。重要な空燃費もしっかりとセッティングされている。



Zのスタイリングにおけるチャームポイントは数知れない。このセクシーなフード周りもそのひとつだ。



ネオ6の滑らかな加速と ZGならではのルックスの妙

フェアレディ 240 Z。その空気を切り裂くという表現に相応しい美しいボディワークと、大排気量化によってパワーアップされたエンジンとの組み合わせが、発売当時のスポーツカーファンを魅了。まだ経験の浅い若者たちにとっては、文字通りの高嶺の花として崇められていた。

さて、単なるクラシックカスタムの枠を超えた、スペシャリティ・クラシックカスタムをプロデュースするロッキーオートには、日本中から様々なカスタマーが訪れる。年齢層としては人生経験豊かな年配者が占める割合が大きいということであり、その

中には昔の夢を今実現させるためにショップのドアを開ける方も少なくはないということである。

ここに紹介する 240Z は、そんな粋な遊び心を抱えた成功者たちに、高い人気を誇る内容に仕上がった 1 台である。

人気の秘密その 1。それは何と言ってもクルマのハートとなるエンジンのチョイスである。ただ単にパワーを追及するのであれば数多くの選択肢があるが、マニアならば何かどこかにこだわりたいというが正直なところ。そこで、ご覧のクルマには定番の RB コンバートの中から、あえて

RB25DETを搭載しているのである。DOHC24バルブのRB25DEにターボを搭載したRB25DETは、ご覧のNEOストレート6とネーミングされた仕様で、当時の国内規制馬力である280馬力をマーク。実際にさらに上をいくパワーを出せるボテンシャルを無言でアピールする、魅力溢れるパワーソースであった。ロッキーオートではそんな栄えあるエピソードを持つRB25DETこそ、240Zとの組み合わせに相応しいと判断したのである。そんな粋なエンジンチョイスに、遊び心がくすぐられる年配のマニアが多いとも頷ける。

人気の秘密その 2。それはRB25DETのパワーを、なんとオートマティックで愉しんでしまおうという大胆な発想と、それに伴った様々な仕様の完成度の高さである。中でも特筆すべきはパドルシフト。思わずニヤリの装備である。



当時憧れの象徴だったリアスピーカー。これでリアビューもグッと引き締まるというものだ。



排気系のチューンによって得られるモアパワーも半端ではない。オールステンのワンオフとなっている。



細部における純正バージョンの良さが、このクルマの印象をすこぶる良いものにしている。

きっちりと下げられた車高と、インチアップされたホイールがスポーツマインドを象徴している。カッコいい！



さり気なく貼られた240Zのエンブレムに、大人の遊び道具としての品を感じることができる。



クーリングシステムも万全。真夏の激暑路でもオートエアコンで快適に過ごすことができるのだ。



一見ノーマル然としたインテリアだが、細部にまで気を遣ったディテーリングが施されている。



The King of Custom Classics

Case4 NISSAN Fairlady 240ZG RB25DET NEO STRAIGHT

理屈抜きで楽しい! ガツツリ踏めるハイパーZ

キーをひねり、2.5リッター6気筒ツインカムエンジンに火を入れる。その瞬間にからにかとてつもないパワープラントが立ち上がったのだという、心地よい緊迫感に車内が包まれる。十分に暖氣してから軽くスロットルを煽ってみる。例によってタコメーターの針はまるで生き物のように踊る。当然ながらメーター周りを含めた視野に入ってくる部分はフェアレディZそのものであり、タコメーターを躍らせる毎にその研ぎ澄まされたサウンドがドライバーを異次元の世界に誘ってくれる。

走り出すためにシフトに手を伸ばし、ハ

タと我に返る。そう、そこには見慣れたオートマティック用のアームが静かにレイアウトされているのだ。どうか、そうだよな、と再認識すると同時に自分に言い聞かせてドライブレンジにバーを動かし、スロットルを踏み込んだ瞬間! それまで落ちていた気持ちが再度、一気に興奮状態に引き戻された。しっかりと前方に目をやりながら「うおーっ!」と、思わず驚きの声を口にしてしまうほど、その加速は素晴らしいものであった。加速が素晴らしい? それはつまり速いってことでしょう? という声が聞こえてきそうであるが、確かに速

いことは速い、でもそこにははつきりとした味、しかも上質な加速感を感じができるのだ。適度にストロークしてくれるしなやかな足回り、ステアリングから感じる安心の操縦感覚、ほどよく室内に響くレーシーなサウンド、そして何よりもモリモリと膨れ上がる強大なトルク感、と、それらの全てがドライバーの五感にしつとりと染みてくるのである。

これまでに数多くのカスタムZに乗ってきたが、このクルマは、先出の750馬力S31Zとはまた違ったコンセプトの基に存在する、もうひとつのトップエンドと言つ



パドルシフト搭載という、大胆な発想がまたひとつクラシックカスタム界に一石を投じたと言えよう。



なんとしきりと治まっていることか! 思わず目を細めたくなる斬新なルックスである。

ても過言ではないだろう。

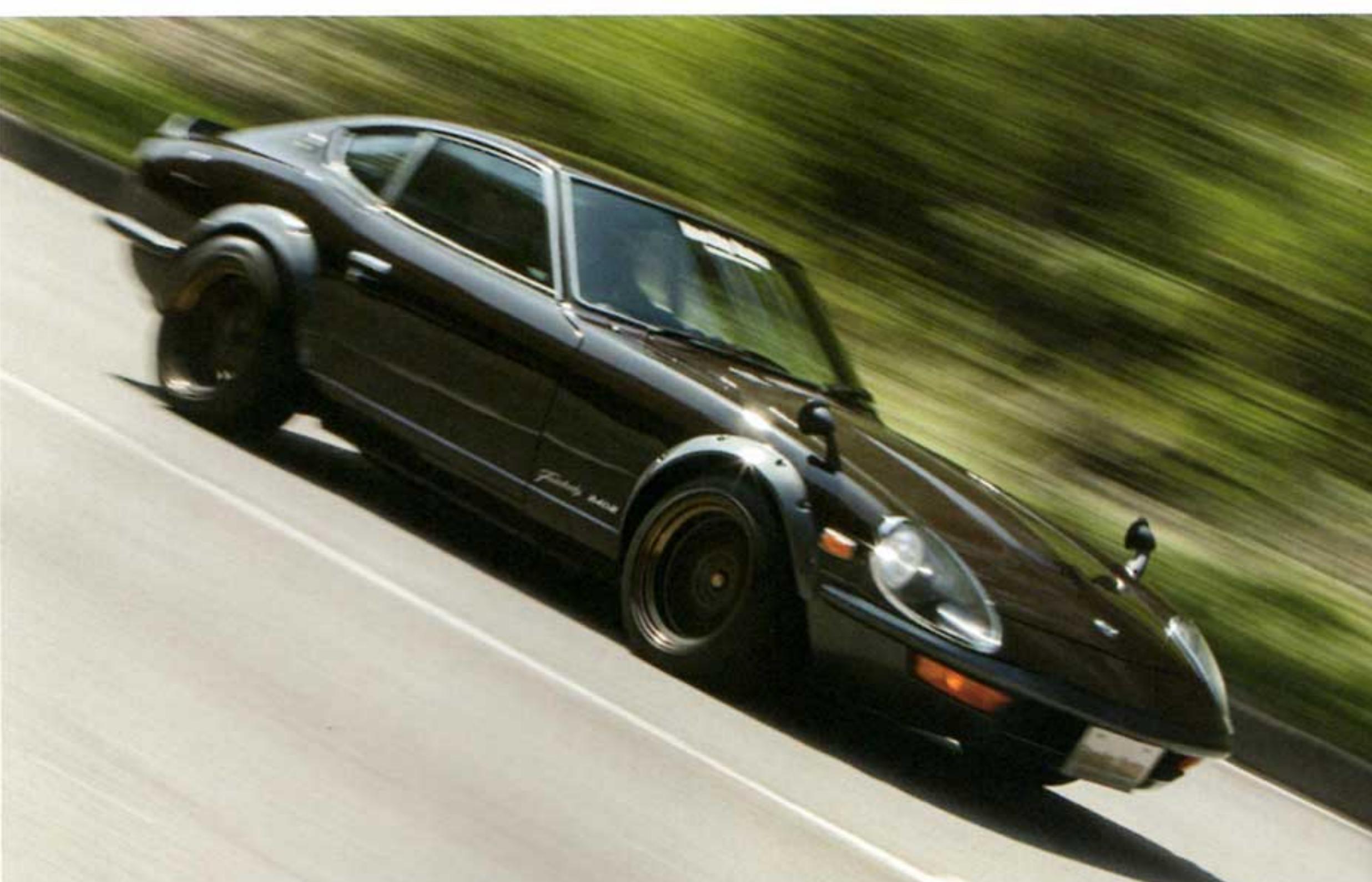
驚きの操縦感覚はまだ続く。そう注目のパドルシフトのフィーリングである。強靭なパワーと高剛性な車体が織り成す上質なパフォーマンスは、パドルシフトの搭載という、大胆かつ魅力的な発想によって、さらに磨きがかかるっている。



フロントタイヤは225/45ZR-16を履く。機敏なコーナリングに大きく貢献している。



リアタイヤは245/45ZR-16。トルクフルなターボパワーをガッシリと路面に伝えてくれる。



理屈抜きで踏んで楽しいリアルスポーツZ。ワインディングにおいてのボテンシャルも注目に値する。

NISSAN Fairlady 240ZG RB25DET NEO STRAIGHT

車体	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアemainフレーム補強 ・バネル溶接接合
エクステリア	<ul style="list-style-type: none"> ・純色マルーンオールペイント ・純正240ZGノーズ ・純正オーバーフェンダー
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・R34メーターパネル移植 ・R34シフター移植 ・パドルシフト化 ・ブラックレカロ SR3 ・MOMOステアリング ・電動パワーステアリング
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ・RB25DET NEOストレート6 ・RB25用ラジエター ・インタークーラー ワンオフSpl. ・マフラー ステンレス製ワンオフ ・最高出力 280ps/6,400rpm
サスペンション	・ロッキーオートオリジナル車高調
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ・F S15シリビア用4ポットキャリパー+スリットローター ・R ドラム
ホイール	・ボルクレーシング TE37V (シルバー/ポリッシュ) F 10Jx16 R 10.5Jx16
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・TOYOプロクセスTIR F 225/45ZR16 R 245/45ZR16

るということだ。誤解のなきよう、現状でも非の打ち所がないほど高い完成度を見せているのは事実である。つまり更にその上去いく、という意味において、その計り知れないポテンシャルの高さに驚かずにはいられないのである。

スポーツカー、それもクラシックと呼ばれる領域でそれを愉しむには、様々なリスクを伴うものだ。しかし、もし貴方がそのリスクの中にある、旧いがゆえに大変なドライビングを強いられる、という部分がハードルとなっているのならば、ロッキーオートのこのコンセプトは見逃せない存在であるに違いない。

これから自分色に染められる高性能なクラシックカスタム車。なんとも新鮮で魅惑的な存在である。

これぞ究極のメティス
Zがトヨタパワーで走る!

NISSAN Fairlady S31Z V8 1UZ

「カスタムのノウハウにセオリーはない、大切なことはオーナーがいかに満足できるかである」と
ロッキーオート代表、渡辺善也氏は語る。ここに紹介するZもまた、そんな氏のポリシーが如実に表現された作品である。

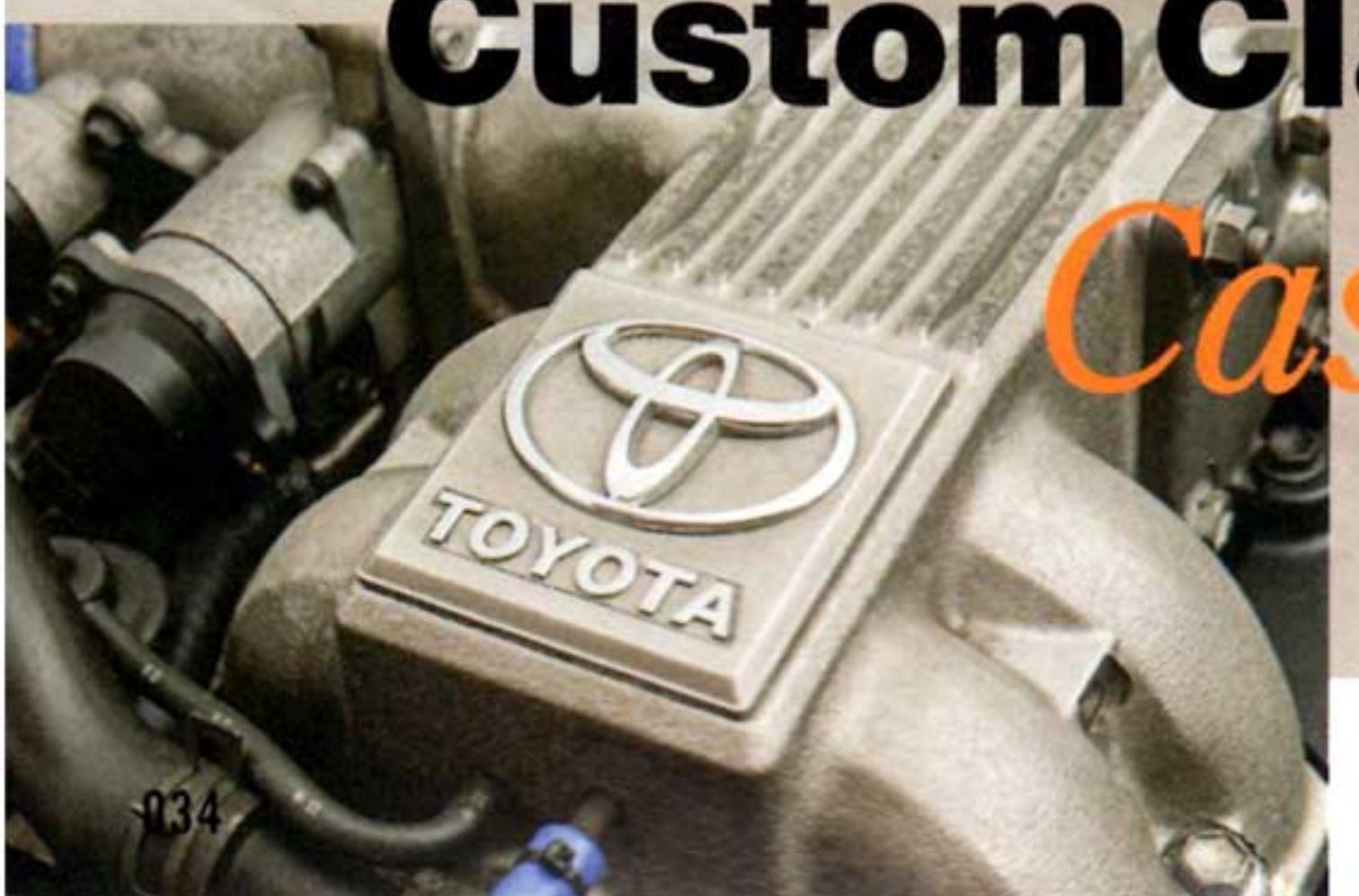
トヨタのV8でパワフルかつラグジュアリーに走るS31Z。

こんな奇抜なアイデアを高い次元で具現化する情熱と技術力に乾杯!



The King of
Custom Classics

Case 5



The King of Custom Classics
Case5 NISSAN Fairlady S31Z V8 1UZ

驚きのスペックを光らせる オーソドクスなエクステリア



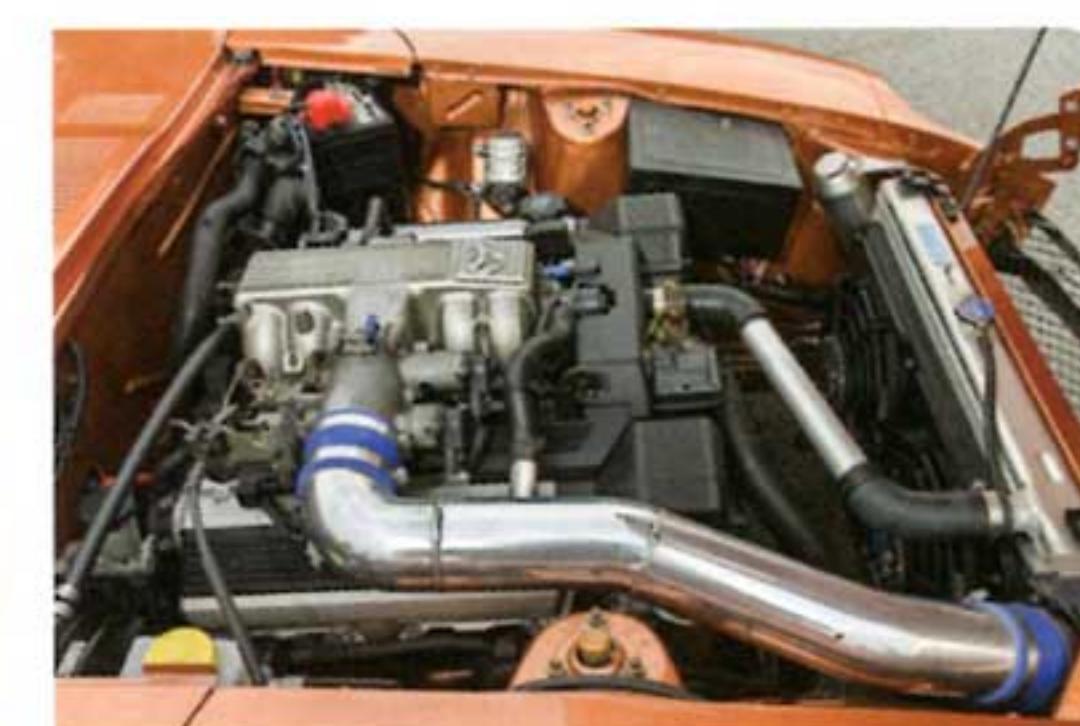
このフードの中にトヨタのV8が潜んでいるなど、誰が想像できよう。クラシックカスタムは本当に嬉しい。



ラジエーターとエンジンのクリアランスを見れば、1UZがいかにコンパクトなユニットであるかがわかる。



トヨタの名器はDOHCの32バルブ、90度V8エンジン。ゆえにFOUR CAMの文字が誇らしげに飾られる。



余裕のスペースを活かすことで、吸気やクーリングにおいて無理のないレイアウトが可能となっている。



大形のラジエーターに電動ファンを2連装。V8が発生する小さくはない熱量を効率的に交換している。

クラシックカスタムの醍醐味は、その自由な発想に尽きる。ともすれば、意味のない制約や、誰が決めたでもないセオリーを伴った既成概念によって、発想の段階で縛られてしまうケースもあるようだが、当然ながら発想することに一切の制約など存在しないのである。

では何がカスタムという言葉の前に立ちはだかるのか、それはとりもなおさず現実化に向けての可能性である。発想は自由なれど、物理的な制約はもちろん、もしそれがカタチになったとしたら、次には実用性、安全性、そして登録と、そのハードルの数と高さは半端ではないのだ。

さて、そんなカスタムビルダーの前に立ちはだかるハードルをもろともせず、敢然とまい進しているのがロッキーオートである。そしてここに紹介するフェアレディZこそ、ロッキーオートならではの自由な発

想と、高い技術力の融合を如実に証明する1台と言えよう。

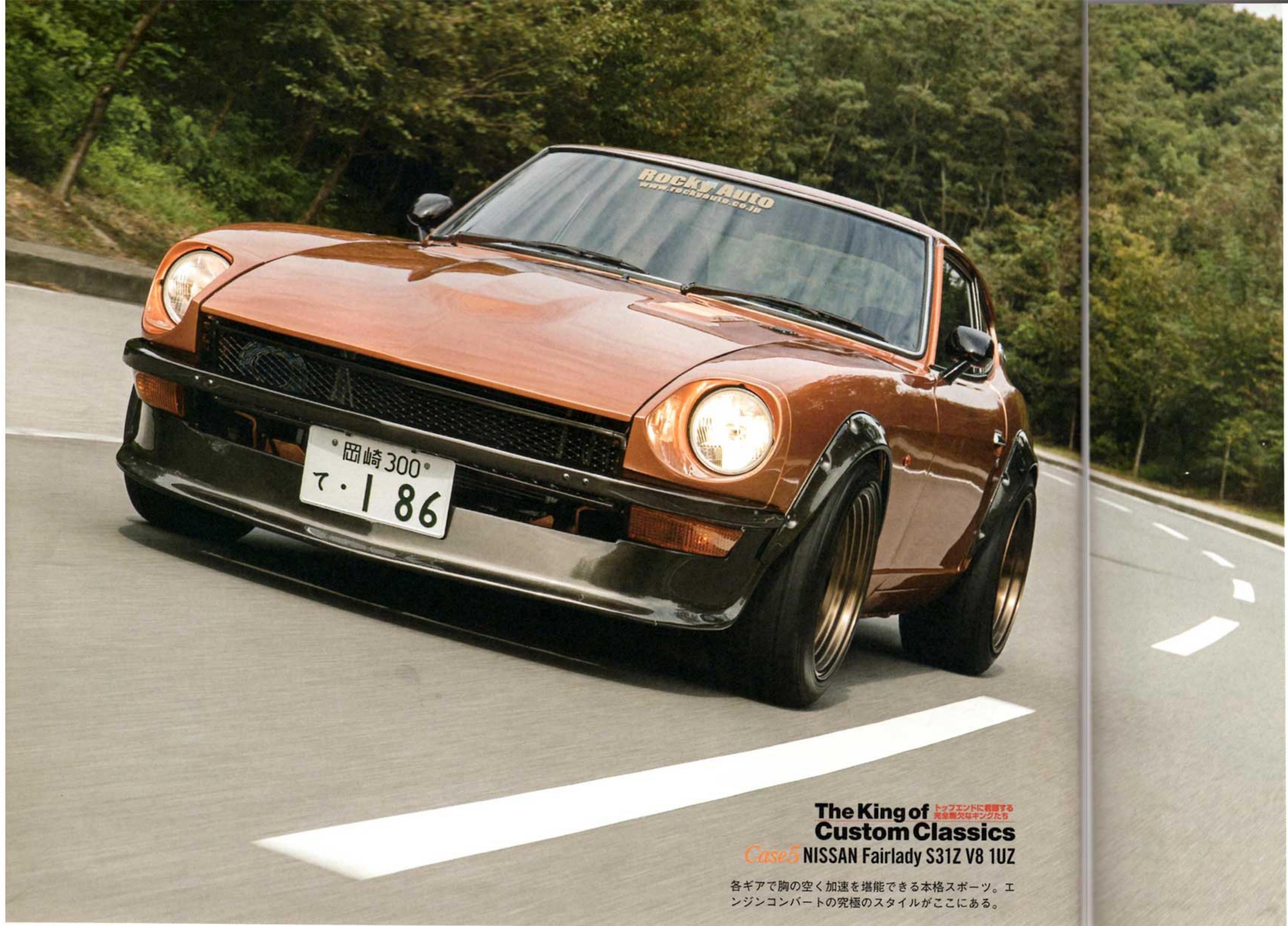
一見何の変哲もない、ノーマル然としたエクステリアが美しいS31Zであるが、驚くなれば、その心臓部にはトヨタが誇る名器、1UZエンジンが搭載されているのである。1UZとは、言わずと知れた4リッターのV8ツインカム、32バルブである。1989年に登場したそのパワフルで静肅なエンジンは、リファインされながらリスト、ソアラ、セルシオといった歴々の高級車に搭載してきた。ちなみにご覧のエンジンはトヨタの高級ブランド、レクサスに搭載されていたものである。

フードを開けてまず驚くのはエンジンユニットのサイズである。ギュッとマスが集中されたユニットは、それが4リッターのV8であることが、にわかには信じがたいほどコンパクトに見える。アメ車通であれ

ば「当然！」と胸を張るところだが、実際に車体に乗せることで、その現実に驚かされる。また、エンジンがコンパクトであることによって得られるメリットは計り知れないものがある。ご覧のように補器類の造り込みをスマートにフィニッシュできることはもちろん、クーリングにおけるエアマネージメントにおいてもそのメリットは大きいのである。



エンジンのキャラクターを活かして、必要以上の音量を発しない大人のエキゾーストも嬉しい。



どこからでもフル加速する 魅力的なスーパーZ

このクルマのキーを回してエンジンをスタートさせる時の感覚は当然ながらにもかくも違う。かすかなヒュッというセルモーターの音と一緒に聞こえてくるコンコンッというクランクリング音を、ほんの1秒も聞かないうちにエンジンは静かなアイドリングで指令を待つ。感覚としてはグリンとクランクシャフトを半回転もさせて、一気に火が入る、といったものである。

さて、しなやかで上品なストロークを感じさせるシフトをローに入れ、前代未聞の4リッターZで滑り出す。すぐに足回りが

必要以上に固くないことに気づき、ロッキーオートのこのクルマに対するキャラクターのポジショニングを理解する。

さて、2速全開である。エンジンは瞬間に6,000r.p.m.のレッドゾーンまで吹き上がり、車体は一気にスピードに乗る。スロットカーに乗れたなら、きっとこんな感じなのだろうと勝手に想像する。そして驚くなれば、3速、4速とほぼ同じようにタコメーターが跳ね上がり、車体は文字通り矢のごとく突進していくのである。

これは面白い、と関心しながらふと、と

いうわけで、当然ながらこのクルマのキーはこのようになる。なんとも微笑ましい光景である。



んでもないことに気づいた。それは静謐性である。もちろん高級セダンのそれと比べるようなナンセンスなことはしないが、それでも他のエンジンコンバート車と比較すると、実に落ち着いた室内を演出してくれる。とんでもない加速で、視覚としてはフェアレディZ、でも静かでジェントル……と、そんなアンバランスの妙こそが、このクルマの真骨頂である。そしてこの新鮮な感覚こそが、大人のクラシックマニアにとって強い所有欲につながることは言うまでもない。

車高調整式のショックユニットは、当然ながら走りに合わせてダンパー効果も細かにセッティングできるようになっている。



車体に似合ったカラーリングのホイールは、今やクラシックカスタムの定番アイテムとなったレイズ。4輪ディスクブレーキで確かなストッピングパワーを確保している。



NISSAN Fairlady S31Z V8 1UZ

車体 フレーム補強・センターフレーム、ステップ 全てパネル溶接

エクステリア ボンネットエアダクト・フェラーリ360モナサウンドウインカー

インテリア リクライニングタイフレカロ左右・スイッチレバー移植・エアコンコントロールユニット移植・ラック&ビニオン油圧パワステ・オートライト・時間調節間欠ワイパー・樹脂製燃料タンク

エンジン レクサス 1UZ V8 32バルブツインカム・アルミラジエーター・電動ファン・ワンオフステンレスマフラー

サスペンション オリジナル車高調・ビロテンションロッド

ブレーキ 4輪ディスクブレーキ

ホイール レイズ F 8Jx16 R 10.5Jx17

タイヤ ブリヂストン GRID 車 F 205/50ZR16 R 235/45ZR17



真のZ好きを唸らせるエクステリアの仕上げにも抜かりはない。カッバーゴールドとガンメタリックの相性も抜群だ。ちなみに極小のフェンダーマーカーは、フェラーリの360モデナ純正のものが流用されている。

ダッシュ周りには極力ノーマルのイメージを崩さないコンセプトが踏襲されている。



車各に見合ったゴージャスなシートを装備。ロングドライブも難なくこなせるバフォーマンスが魅力だ。

TOYOTA 2000GT Hybrid 発進!

Classic & Custom Car Magazine

GoodsPress 12月号増刊 Bullet

[バレット]

Vol.

01

定価 1000 円

Bullet

総力特集

Rocky Magicの真実

750馬力“Z”に見る渡辺喜也の本気度
RB vs. Lそれぞれのテイスト



[USAスペシャルリポート]

Excellence J-Classic in CA.

BREピートブロックのV8 DATSUN510